

校長室から



いろいろな人から学んだ防災学習

3年前の西日本豪雨災害ではこの角山小学校も水に浸かりました。被災を忘れないよう今年は浸水した水位を示すプレートを校庭の植込みの壁面に設置しました。

今回の防災教室では水害で避難する意味や心の備えについて、地域や保護者の方と一緒に勉強しました。

設定は、角山学区に住む気楽一郎さんは78歳。5年前に奥さんを亡くし、隣に住む息子夫婦には小学生の孫

がいます。その孫はおじいさんが大好きです。そんな中、1000年に一度の大雨が降り、角山地区に高齢者避難が出されました。息子はおじいさんのところに一緒に避難するよう呼びかけますが、おじいさんは住む家に長年の思い出があり、逃げないと言い張ります。町内会長も大声を聞きつけて説得しますが、そっぽを向いて言うことをききません。そんなとき、あなたは、子ども、孫、地域の人立場でどのように説得するかを寸劇で示しました。孫、子ども、地域のそれぞれの立場で説得のセリフを考え、最後に感想を述べ合いました。参加した児童の考えたセリフや授業を受けた感想を紹介します。

- ・「おばあさんが悲しむよ。気楽じいさんはおばあさんの分まで生きる。」
- ・「自分の命ばかり考えずに、みんなの命も考えて逃げよう」
- ・「自分が子ども（の立場）だったらどうするの」
- ・「おばあさんはそんなこと（家に残ること）を思っていないよ。それにぼくを置いて行っていいの？二度と会えなくなるよ」

○ぼくは防災教室で、今はまださいがいがおこっていないからかんただけど、いざとなったら、ひなんをせつとくするのはむずかしいことだということがわかった。

「気楽一郎じいさんを救え」で、一さくばんから雨がふって、けいかいレベル3の「こうれい者等ひなん」が出ているにもかかわらず、気楽一郎じいさんは、ひなんじょにいかないと言っていて、ひなんするようせつとくのセリフをかんがえるときはとてもなやんだし、むずかしかったです。でも友達の「家と命だったら命のほうが大切」や「家にいるからって家を守れるわけじゃない」をきいて、たしかにとおもいました。

さいがいがおこる前に、いろいろなそなえをすることが大切なことがわかりました。げきもおもしろかったです。

○私は、金曜日に防災教室で、ひなんする気の無い人をせつとくする方法について考えて学びました。

最初はそんなことはかんたんだろうと思っていましたが、実際考えて、その言葉を伝えるとなるとすごく難しくていきづまりました。

でも、他の人の話を聞いていると色々考えが思いうかんでよかったです。私がいいなと思ったのは、〇〇さんが「おじいさんには生きてほしいな」という言葉です。とても印象的でした。それと公民館長さんの「せつ得しているうちにも危険が迫っている」という言葉も印象的でした。

防災教室では、逃げたくない人をせつ得することはすごく難しいと思いました。